

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

既存建物を活用した創造的なリノベーション

基本情報

大学名：京都大学
建物名：物質－細胞統合システム拠点本館
工期：平成20年7月～平成21年3月
構造・階数：RC・地上4階、地下1階
延床面積：3,985㎡
事業費（設計費含む）：787,307千円



外観



整備の方向性

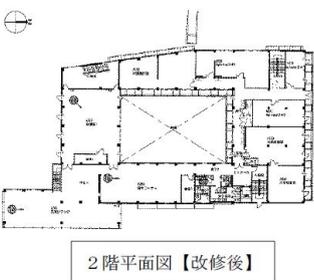
○既存建物のリノベーションによる世界トップレベルの研究拠点形成

- ・「物質－細胞統合科学という新たな学際領域を創出する」、「科学者のキャリア形成における国際的ハブとなる」、この二つをミッションとして、世界中から集まった高いレベルの研究者を中核とした、世界トップレベルの研究拠点の形成。
- ・安心安全な教育研究環境を実現するため、昭和41年及び昭和50年に建築された建物の耐震補強を行うとともに内外改修により、人文系の研究室・書庫等から自然科学系の実験研究棟へと仕様変更を行い、創造的なリノベーション整備を実施。

計画・設計上のポイント

○交流を促すスペースの創出

- ・本館には共同研究スペース以外に、大型セミナー室、研究者の交流の場として活用されているラウンジ、会議スペースにも利用できる展示室等があり、西館には共同研究スペースと会議スペースがある。また、世界をリードする最先端の実験・研究が行えるよう、オープンラボスペースを設けている。
- ・展示室にはブロック毎にスクリーンが設置されており、小さなスペース毎に区切って利用することも可能で機能的なつくりとなっている。
- ・外国人研究者も多いことから随所に和のテイストを取り入れている。





3階平面図【改修前】

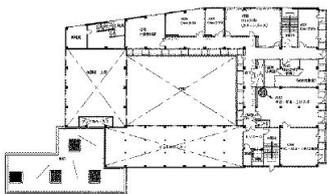


研究室



Before

研究室



3階平面図【改修後】



After

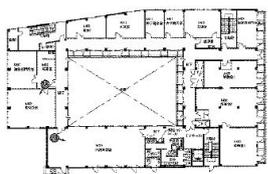
オープンラボ



4階平面図【改修前】



書庫



4階平面図【改修後】



After

オープンラボ



(左) ほぼ毎日行われるグループミーティングのほか研究グループの交流会も月1回行われるラウンジ。
 (中央) 外国人研究者も多いため、随所に和のテイストが取り入れられている。
 (右) 大きな窓からは、京の風物詩・大文字の送り火を望むことができる。



(左) 30～60名規模のシンポジウムなど（月2回）や、グループミーティングが行われるセミナー室。
 (中央) 展示スペースは会議スペースとしても利用でき、月1回はイベントの場としても活用されている。
 (右) スクリーンを降ろせば、小さなスペースごとに区切って利用することもできる機能的なつくり。



(左右) 建物の中央部分にある開放的な中庭。

施設整備の効果

○研究環境の充実

- ・ 耐震補強及び内外部改修により、学生・教職員の安全性が確保され、設備改修において信頼性の高い電力等のインフラ供給、高効率な空調設備等の導入による省エネ等、施設・設備の機能向上を図った。
- ・ 改修後は世界をリードする最先端の実験・研究が行えるよう、オープンラボスペースや異分野研究者との交流の場を設けることにより、世界トップレベルの研究課題を推進するに相応しい研究環境を整備した。
- ・ 既存2階の閲覧室、図書室は無窓の空間であったが、外壁のカーテンウォール化によって、交流ラウンジからは、大文字山（如意ヶ嶽）を中心とした東山の連なりを望むことができ、外国人研究者等との交流の場として活用されている。